

はじめに

－国際交流基金（ジャパンファウンデーション）の日本語事業について－

国際交流基金が2012年に実施した調査では、海外の日本語学習者は136の国・地域に広がり、その数は400万人近くになっています。日本語学習の目的や動機は、日本語そのものへの興味・関心から歴史・文学、政治・経済、さらにアニメ・マンガやJ-POP等のポップカルチャーにいたる日本文化の様々な側面への興味・関心、日本への留学、就職にまで非常に多岐にわたっています。

こうした状況を踏まえ、国際交流基金では、グローバル化が進む国際社会において、日本語でコミュニケーションできる人の数が増えるという「数」の側面だけでなく、日本語でのコミュニケーションによって、他の人と情報・意見を取り交わす、知識を深める、学問・研究を行う、仕事やビジネスに役立てる、芸術・文化を楽しむ、趣味を究める等々、様々な場で日本語によって実現できること、達成できることが広がっていくという「質」の面でも、日本語の「国際化」をさらに推進していくために日本語教育の基盤・環境の整備に取り組んでいます。

そのための中心的な事業として、“Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment” (CEFR) を参照して、「相互理解のための日本語」という理念のもと、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるツールである JF 日本語教育スタンダード (JF スタンダードと略す) を開発し、2010年に『JF 日本語教育スタンダード2010』として発表しました。JF スタンダードは、異なる文化を背景とした人々が日本語を通じて相互理解を深めるには、日本語を使って何がどのようにできるのかという「課題遂行能力」と、様々な文化に触れることで複合的な視野を持ち、人々と柔軟に調整し合える「異文化理解能力」が必要であるとの考え方を核にしています。

また、JF スタンダードの発表以降、これまで海外拠点で実施されてきた日本語講座を JF スタンダードの考え方に基づく海外日本語講座 (JF 講座と称す) に切り替え、JF スタンダードに準拠した新しい教材として『まるごと 日本のことばと文化』の制作にも取り組んでいます。

国際交流基金は、こうした日本語教育の基盤・環境の整備に取り組むことで、さまざまな目的・動機で日本語を学習する、あるいは、これから学習しようとする皆さんが、日本語によるコミュニケーション活動をすることで楽しさを見出し、充実感を味わっていただけるようにしていきたいと考えています。

平成 27 (2015) 年 1 月 31 日

国際交流基金